【種別】
“紅世の徒”、通称

【初出】
SII巻

【解説】
真名は“坤典の隧”（こんてんのすい）。炎の色は不明。
ギュウキ、パラと共に、“徒”の運び屋集団［百鬼夜行］を営む。
団内での役割は用心棒。

二十代半ばの女性の姿で、ざんばら髪を雑に束ねて眼に隈取をした和装姿の“徒”。
常にゴツいツルハシを持ち歩いている。百鬼夜行の用心棒ではあるが、実は外見に反して荒事はそれほど得意ではなく自在法を用いて逃げ回る方が得意な自在師。強大な“王”やフレイムヘイズと張り合えるほどではない。

地面に大穴を掘る遁走の自在法『地駛』を使う。地面から遠いと使えない。

本編開始の二年前、中央アジアにて『万条の仕手』ヴィルヘルミナ・カルメルと『約束の二人』に遭遇し、戦闘する事態にまで陥ったが、運んでいた乗客を囮に仕立て、ギュウキ、パラ共々逃走した。

【元ネタ】
名前の元ネタはリトアニアの民間伝承に登場する自然の女の精霊『ゼミナ（Zemyna）』。
名前は「土の女主」を意味し、豊穣や肥沃を司るとされる。

「坤」は大地または土の下に引っ込むこと、「典」は司る・一定の仕事をあずかること、そして「隧」は奥へと入り込むトンネルを意味する。
真名全体で、「地中の深奥への遁走を司るトンネル」といった意味になると思われる。その名前は自在法『地駛』によって地下を逃げる彼女の能力の本質を表している。

【コメント】
☆フィレスには敵わなかった。
☆［百鬼夜行］の中で唯一、本性のまま人の姿をしている。メリヒムのように。
☆アニメ第３期では人化した姿に続いて、人化を解いた姿でも登場した。人化すると隈取が無くなるようだ。